
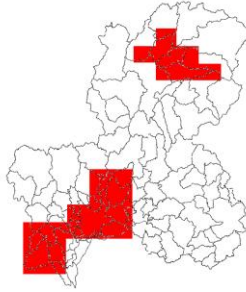


フジバカマ	<i>Eupatorium japonicum</i> Thunb.	準絶滅危惧
(環境省:準絶滅危惧)		キク科
選定理由	かつて見られた多くの生育地が急激に減少し、個体数も大きく減少しており、更に減少すれば個体群の維持が危うくなり、絶滅する可能性が出てくる。	写真(大塚英樹)
形態の特徴	茎は高さ80-120cm。葉は対生、短い葉柄があり、葉身は上部のものを除き3深裂して、長さ8-12cm、縁に鋸歯がある。頭花は茎と上部の葉腋から出る枝の先に散房状につき、5個の筒状花からなり、淡紫色。総苞は長さ約8mm。	
生態的特徴	日当たりのよい河原の土手などに生育する多年草。花期は8-9月。	
分布状況	朝鮮と中国に分布し、日本では本州の関東地方から九州に見られる。岐阜県では県北に少しと、県南の南西部にある。	
減少要因	護岸工事により生育できる条件が奪われたことによると考えられる。	
保全対策	生育地の保全。	
特記事項	日本に自生するという見方と、古く中国や朝鮮から移入されて野生化したという見方がある。栽培されたものが最近逸出したと考えられるものもある	
参考文献		

文責:高橋弘